

令和5年度学校関係者評価報告書

1 学校関係者評価の構成員

学校運営協議会委員9名、PTA会長、校長、教頭、事務長、教務主任

2 学校の教育目標の達成状況（概要）

本校の教育目標は、「夢をいだき 心豊かに 学び合う児童の育成」である。この目標を達成するための望ましい児童像「深く学び 希望を胸に 明るくあいさつ 元気な子」と設定し、取組の工夫と改善に努めてきた。

(1) 「深く学び」「希望を胸に」、かしこく学び合う子の育成

今年度は、「ともにつながり、深く学び合う児童の育成」を研究主題にして、①主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり、②自分・仲間・教材とつながるための1人1台端末の効果的な活用について研究を進めた。児童の自己評価では、「学校の勉強がよく分かるか」について93.7%の児童が肯定的な回答をした。1人1台端末を活用するよう授業展開を考え、具体的な実践例を紹介し、共有することで活用の機会が増え、児童の操作スキルも高まってきた。

(2) 「明るくあいさつ」を基本に、なかよくつながる子の育成

「あいさつ日本一」の学校を目指し、年間を通じて、教職員による挨拶指導や生活委員会の挨拶運動などを行った。気持ちの良い挨拶ができた児童には花を渡して掲示したり、生活委員会が挨拶調べをしたりしたことで、児童の意欲が高まっているものの、まだまだ十分とは言い難い。

毎月、悩み調査を実施している。調査後、気になる児童にはすぐに教育相談を実施した。また、生徒指導上の問題について、教職員で情報を共通理解し、全校で対応するようにした。

(3) 心身ともに、たくましく「元気な子」の育成

基本的な生活習慣を定着させ、規範意識を育むために、「黙動」「時間を守る」「履物をそろえる」「気持ちの良い挨拶」「感謝の心を持つ」に全校で取り組んだ。児童の自己評価からも、これらを意識して学校生活を送れていることが分かる。

ハートなんでも相談員とスクールソーシャルワーカーが来校する日を児童と保護者に周知している。相談者がいない時には各教室の様子を見たり、給食を一緒に食べたりして、児童が相談しやすい環境づくりに取り組んだ。

3 主な取組の課題と改善

- 1人1台端末の効果的な活用について研究を進めてきたが、児童が使用する上での学習規律の確立や操作スキルの向上など、日常的に使用するには課題が多い。また、効果的な活用場面を考えるなど、学習効果を上げるための手段として用いられるような研修を重ねていく。
- 学校をより良くするためにいじめや悪口などをなくせばよいと考えている児童が複数いる。いじめや非行につながる問題行動を見逃すことがないように、「チーム吹揚」で未然防止や早期対応、早期解決に取り組む。
- 基本的な生活習慣と規範意識をより定着させるために、「吹揚の子のきまり」を教職員、保護者、児童がいつでも確認できる状態にする。

4 その他（学校評議員からいただいた意見）

- ・ 児童を、学校、家庭、地域でしっかりと褒めて伸ばしていく必要がある。
 - ・ 学校が合併をして子どもは一緒に学んでいるが、地域が一つになれていない。学校、家庭、地域の連携を強化していきたい。
- その他、出された意見を基に、学校、家庭、地域が協力して教育活動に取り組んでいく。